

月までセンサーは積雪の下にあったためと考えられる。積雪に覆われていた可能性のある1月~3月を除くと、4つの観測点共に7月に最低値を記録した。7月は富山県の森林群落では林冠の葉が展開を終え、一定の葉量を維持している時期である。この時期と月平均日較差が最低となる時期が一致することから、林床の安定な温度環境は林冠を構成する樹木の生活と関係があると推定される。地表面(地上0m)の月平均日較差の変動は、4つの観測点共に良く似ており、観測地点の標高の低い場屋敷林では3月に、そして観測地点の標高が高くなるにつれて、4月、5月と最大値を示す月が遅れる傾向が見られた。これは雪解け後に月平均日較差が最大になる傾向を示していると考えられる。そして、地上2mの場合と同様に冬季を除くと、4つの観測点ともに7月に3℃前後の極値を示した。このことも林冠の葉量の充実期と一致すると考えられ。以上のことから林床の月平均日較差の変動は、林分の構成種が共に落葉樹であり、その生活リズムが重要な要因の1つと推定された。

今回は1998年10月~1999年11月までのほぼ1年間の観測結果を示したが、今後、これらのデータの解析を進め、森林群落の分布、林床植物や土壌動物の生態との関係を考察したいと考えている。

引用文献

- 吉良龍夫・四手井綱秀・沼田真・依田恭二, 1976. 日本の植生-世界の植生配置の中での位置づけ. 科学 46(4), 235-247.
- 気象庁, 1996. 気象庁観測平年値, CD-ROM, メッシュ統計値. (財)気象業務支援センター, 東京.
- 佐藤卓, 1989. 二上山に見られるブナ林について. 富山県生物学会誌 29, 47-52.
- 佐藤卓, 1994. 二上山のブナは低地型ブナ林. 「越中二上山と国泰寺」, 弘源禪寺総合調査団編, pp. 45-50. 桂書房, 富山.
- 佐藤卓・松村勉, 1997. 1. 富山のブナ林. 「富山のブナ林と生き物たち」, ブナ林研究グループ, pp. 1-22. ブナ林研究グループ.

松村勉・平内好子・小川徳重・佐藤卓, 1998. 富山県魚津市平沢トチノキ林の森林構造とサラダニ類. 富山市科学文化センター研究報告 21, 15-21.

氷見市におけるイトモ生育地と同定上の問題点

中川 定一

〒935-0004 富山県氷見市北大町13-47

New Locality of *Potamogeton pusilla* in Himi City, Toyama Prefecture.

Teich Nakagawa : 13-47 Kitaoomati Himi City

イトモ (*Potamogeton pusilla*, ヘルムシロ科) は、環境庁のレッドリスト(環境庁, 1997)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)である。同リストの現存情報では、富山県、石川県に現存するとの分布情報がなく、富山県、石川県の文献等による情報のみになっている。富山県植物誌(大田弘ほか, 1983)では、イトモは平地の緩流水路などにあり、県内の市町村に多く分布しているとあるが、富山市科学文化センターや県中央植物園等の標本をみても確実にイトモであるという標本は少ない。今回、氷見市の3ヶ所で確実な標本を採ったので報告する。

動機と経過

1. 平成10年秋、氷見市堀田のため池と同市加納の水路でイトモらしきもの見つけた。この時はイトモと思いこんでいた。

・平成11年春、県中央植物園を訪れたところが、中田さんが、私の持っていた生の水草を見られてアイノコイトモでないかと言われたのが、イトモ調査の動機となった。アイノコイトモは、葉の長さや幅がイトモよりやや大きいということだ。イトモと混同しないように同定を進める必要がある。

・11年7月、氷見市戸津宮のため池で関さんがイトモらしきものを採集して、同定してくれと持ち込む。同日、戸津宮のため池に行く。

・8月、庭の水槽のなかに、昨年採集し栽培しておいた、堀田のため池のイトモが実をつ

けているのを発見した。県中央植物園の中田さんに見てもらったところ、イトモであると言われた。

・8月20日 氷見市堀田の池

イトモ本体が枯れていて褐色になっていた。花も実も観察できない。

・8月21日 氷見市戸津宮の池

イトモは池の端から2mぐらいのところで大繁茂していた。採集して調べたが、実のついたイトモを見つけることができなかった。

・同8月21日 氷見市角間の池

6月には繁茂していた所にイトモが見えない。よく見ると糸くずのように短く切れて(5~10cm)、もつれあって水面に浮かんでいた。その切れ端のうち1/4ぐらいは果実をつけていた。

・同8月22日 石川県志雄町久保家の水槽

イトモの葉は緑で葉色は良い。しかし、実や殖芽をつけそうにない。昨年、今年と、実や殖芽をつけないとのこと。

・同8月28日 戸津宮の池

ゴミ袋一杯イトモを採集。その中に数個の果実があった。

堀田、戸津宮、角間のため池に共通する点

・30~60cmばかりの浅い池で山からの浸透する水で農業などは入らない。

・他の植物も生育している。

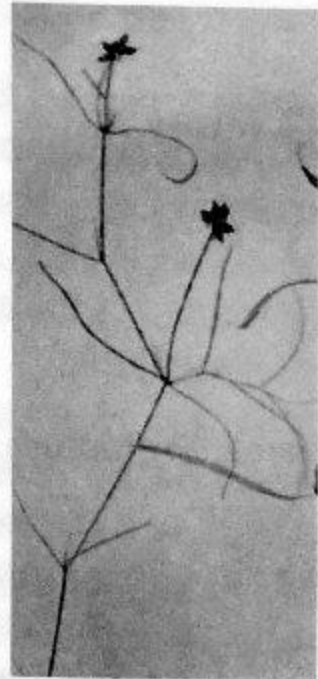


図1. 日本水草図鑑のイトモ。

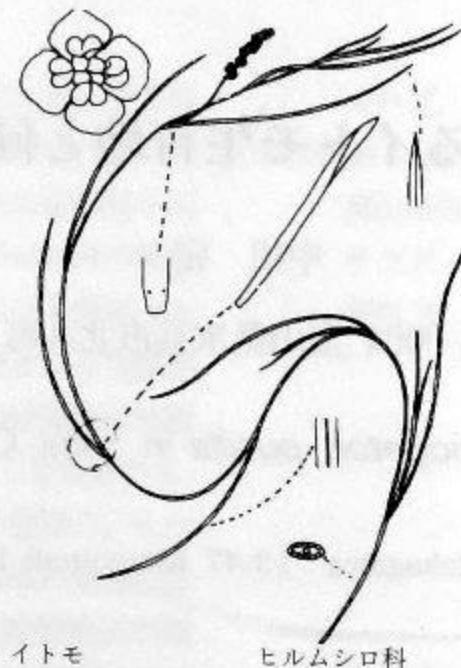


図2. 加賀・植物図鑑のイトモ。原色日本植物図鑑も同じ。



図3. 氷見市堀田産のイトモ (撮影10.8.10)。

2. イトモの同定の困難さ

日本水草図鑑 (角野, 1994) にも『本当のイトモは夏に採集された標本があれば、普通たぐさの実を付けている。しかし、花も実もない標本の場合、本当のイトモなのか別物なのか決め手がない。日本産のイトモ類の分類をどのように整理するかは残された課題である。』とある。

実際、果実のついたイトモ類を観察していても、照合する図鑑によって果実のつきかたが異なるので判断に苦しむ。氷見市堀田産のイトモ (図3) は、果実のつき方が茎の上方にかたまつてつき、それぞれの実が尖っていることから、日本水草図鑑のイトモ (図1) にあたる。

しかし、原色日本植物図鑑 (北村他, 1970) や加賀・能登植物図譜 (小牧, 1987) のイトモの果実のつき方 (図2) は数段に別れており、それぞれの果実が尖っているようには見えない。文献からは、イトモの果実のつきかたに2型あるように思えるのである。原色日本植物図鑑型イトモは氷見を含む能登半島にあるのか? 季節とか環境によって型が変化するのか? これらの点を明らかにするために、継続的な観察および分布調査を行うことが必要である。

この稿を書くにあたり富山県中央植物園の中田

政司氏、富山県科学文化センターの太田道人氏に多くの助言を頂いた。あつく御礼申しあげる。また、標本は富山県中央植物園、富山県科学文化センターに寄贈した。

*文中

久保: 久保 広子 石川県志雄町 能登・山を歩く会員

関: 関 一朗 氷見市戸津宮 氷見市自然保護員

引用文献

- 大田 弘・小路登一・長井真隆. 1983. 富山県植物誌. 廣文堂. 富山.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑, 文一総合出版, 東京
- 環境庁. 1997. 植物版レッドリストの作成について. 80pp. 環境庁.
- 北村四郎・村田源・小山鉄夫. 1970. 原色日本植物図鑑下 18 印. 保育社. 大阪.
- 小牧旌. 1987. 加賀・能登植物図譜. 同刊行会. 石川.
- 富山県水生植物研究会 (編). 1996. 富山県の水生生物 (富山県の水生植物). 富山県.

南の島にワラジムシをさがして

布村 昇

富山県科学文化センター 富山県西中野町 1-8-31 〒939-8084

Short Collecting Trips to The Subtropical Islands

Noboru Nunomura : Toyama Science Museum

私は日本各地のワラジムシ、ダンゴムシ、フナムシなどの仲間すなわち陸生の等脚目甲殻類の調査をしてきた。それらがもう十分というわけではないが、ある程度種類が分かってくるとかれらのルーツを調べたいと考えるようになる。少なくとも日本の周りの地域との類似性を知りたくなる。1996年の中国雲南省への調査もその一環だが、別の要素として日本のはるか南の島々も重要である。しかも一度も行ったこともなければ、報告もほとんど無い。また、日本国内でも南西諸島はまだまだ多くの種類の生息が予想されるが調査の不充分な地域が多い。そこで、これから、これらの地域を少しずつ回ることにした。



朝晩は陸産を調べるという欲張り旅行を計画した。

5月の連休明け、成田を午前11時に出て、時差が1時間早いサイパンには午後3時につく。幸運にもエコノミークラスで一番前の席にいたので早く出、長い入国審査までの、道を急いで歩いた。爽やかな皐月の日本を出たのだが、重い感じの熱風が吹いている。熱帯へ来たという実感を得た。早々と審査を済ませたのに、荷物が最後! ついてない。サンホセの小さなホテルにつく。普通はガラパンあたりの高級ホテルに泊まる。そこでは日本語が通じるが、ここは安宿なので英語での生活だ。でも、高級ホテルは私になじまない。もちろん金も無く、貧乏性で、汚い服を着た者が高級ホテルのロビーを歩いているのはホテルにも迷惑だろうし、私も落ち着かない。

荷物をホテルに放り出すと着替えの時間ももどかしく、浜辺まで小走りに行行って採集! ところが、一匹もワラジムシがいなかった。信じられない。沖縄や小笠原にあればワンサといのに一匹もいないのである。ショックだ。5月で乾季の

1. サイパン紀行

これまで伊豆を南下して小笠原まで調査をしたので、次はマイクロネシアに行きたいと前から思っていた。特にサイパンなど、手軽な場所から始めようと思っていた。実は北マリアナという地域では千葉県立中央博物館の調査が有る。これらは無人島できわめて調査が困難。したがって、その採集品はきわめて貴重品である。そこで、気楽に解剖できるサンプルがほしいと思っており、北マリアナとして南に位置し、観光地で交通の便の良いサイパンはどうかと思っていた。その矢先ドイツのアルシュブラッハ博士からサイパンのワラジムシの標本を貸してあげようとのメールが来た。それなら自分でもサイパンへ行こうと決心した。おりしもゴールデンウィーク明けの休暇があったので、例によって、昼は海の中の等脚類を調べ、